

今年度の糸賀一雄記念賞および糸賀一雄記念未来賞の受賞者が決定しました。

公益財団法人糸賀一雄記念財団では、故糸賀一雄氏の思想や取り組みを新しい目で見直し、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、障害福祉などの分野で顕著な活躍をされている個人・団体に「糸賀一雄記念賞」を、障害者または障害者と同様に社会的障壁による「生きづらさ」がある人に関する取り組みが先進的であり、今後の活躍が期待される個人・団体に「糸賀一雄記念未来賞」を授与しています。

以下のとおり、令和3年度の受賞者が決定し、授賞式を開催します。

1. 受賞者の決定について（詳細は別紙のとおり）

○第23回糸賀一雄記念賞

・玉木幸則氏

（兵庫県西宮市：兵庫県相談支援ネットワーク 代表理事）

○第7回糸賀一雄記念未来賞

・認定特定非営利活動法人NPOぽぽハウス

（滋賀県彦根市：理事長 若林 重一）

・山上庄子氏

（神奈川県川崎市：Palabra 株式会社 代表取締役）

2. 授賞式の開催について

・開催日時：令和3年11月13日（土）午後2時から午後4時半まで

・開催場所：ホテルニューオウミ あづちの間

（近江八幡市鷹飼町 1481）

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、受賞者およびその関係者に限定した参加制限のもとで開催します。

※授賞式の模様を、当日オンライン配信する予定です。

詳細は、財団ホームページ(<http://www.itogazaidan.jp/>)にて、

後日お知らせします。

第 23 回 糸 賀 一 雄 記 念 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

玉木 幸則 氏(兵庫県西宮市)



■経歴

- 1968年 兵庫県姫路市で仮死状態で生まれ、それが原因で脳性麻痺になる。
4歳で肢体不自由児療育施設に入所、小中学校は地元の普通学級で学び、
高等学校は養護学校に進学。
- 1991年 日本福祉大学社会福祉学部第2部卒業
- 1992~2012年 自立生活センターメインストリーム協会事務局次長のちに副代表。
- 2009年~ NHK教育テレビ「きらっといきる」にレギュラー出演。
(現在はEテレ「バリバラ」(みんなのためのバリアフリーバラエティ)として放送中)
- 2013~2017年 西宮市社会福祉協議会 障害者総合相談支援センターにしのみや センター長
- 2017~2020年 西宮市社会福祉協議会 福祉なんでも相談 生活福祉資金
日常自立生活支援事業などの担当係長
- 2021年現在 日本相談支援専門員協会顧問
兵庫県相談支援ネットワーク代表理事
西宮市社会福祉協議会 権利擁護普及推進及び相談支援アドバイザー
内閣府障害者政策委員会委員などを努める。

■活動内容

- ・障害当事者の立場で、障害者の自立生活運動に長年精力的かつ地道に取り組んできた。また、お互いの違いを知り、認め合う社会づくりにも取り組んできた。
- ・その幅広い活動は、書籍も出版し、テレビタレントとしても活躍し、メディアを通して、独特のユーモアセンスと深い洞察力に溢れた魅力的な言葉で、「誰もがともに生きていける社会」づくりをけん引している。

障害当事者として、障害者の自立生活運動に地道に活動され、筋の通った考えのもと、本質的なことをユーモアに包みながら発信するなど、魅力的な活動をされており、糸賀さんが障害を持っていたら、こういう活動をするのではないかと思えるとの高い評価を受け、今後においても一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

第7回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

認定特定非営利活動法人NPOぽぽハウス(滋賀県彦根市)



■活動歴

- 1999年 任意団体NPOぽぽハウス誕生、11月に介護保険基準該当居宅サービスの認可
- 2000年 居宅介護事業所(ケアマネとヘルパー)認定
- 2001年 法人格取得。特定非営利活動法人NPOぽぽハウス誕生
- 2002年 支援費制度「指定居宅事業所」の指定
- 2004年 「ぽぽハウス」あったかファミリーステーション開所
(高齢者デイサービス、宅老所、児童デイサービス、認可外保育所)
- 2010年 障害児通所施設「はばたき」開所
- 2014年 認定NPO法人格取得。認定特定非営利活動法人NPOぽぽハウス
相談支援事業所「ぽぽ相談室」開所
- 2016年 障害児通所施設「きらめき」開所
- 2017年 地域子育て支援センター事業受託

■活動内容

- ・介護保険制度を見据えた高齢者支援事業と当時少なかった未就学児とその親の居場所を提供する子育て支援事業により活動を開始し、介護保険制度開始後は、県内初の基準該当事業所として、居宅訪問介護・居宅介護支援の実施とともに、インフォーマルな有償の生活支援サービスを併せて実施した。
- ・2004年には県事業に応募し、高齢者、子ども、赤ちゃん、障害のある子どもと一緒に過ごす新しい地域交流拠点を開設した。(高齢者の居場所：通所型サービス(介護保険事業)+宅老事業(独自事業)、障害児の余暇活動：児童発達支援・放課後等型サービス・日中一時支援、子育て支援：認可外保育所)
- ・制度によって与えられる福祉ではなく、市民の声に耳を傾け、必要とされるサービスを届けるという理念・姿勢のもと、地域住民のニーズを受け止める地域資源が整うと、事業の見直しを行い、制度では受け止めることが難しいニーズや課題に対応するためのオリジナルの事業を継続的に開発・実践するという、ニーズ志向・課題解決型の福祉実践を展開している。
- ・孤立しがちな障害児、子育て中の親、お年寄りと地域や社会との繋がりをはぐくむ取り組みに加え、生活困窮者など生きづらさを抱える人に働く場を提供するなど、市民団体として市民を巻き込みながら地域福祉を積極的に展開している。

分野を問わず、また、制度による与えられた福祉ではなく、市民のニーズを受け止め、必要なサービスを届けるという姿勢が素晴らしく、既存制度の隙間となるようなニーズや課題を見つけ、それに対応していく先進性が高く評価され、今後も活躍が期待できるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。

第7回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

山上 庄子 氏(神奈川県川崎市)



■経歴

- ・両親が映画の製作配給の仕事をしていたことから映画に囲まれながら育ち、学生時代は映画館スタッフとして働く。
- ・大学卒業後はマングローブの研究者として沖縄で働いていたが、2011年に東京でPalabra株式会社の立ち上げに携わる。
- ・字幕制作部門を担当した後、2017年より代表取締役役に就任。

Palabra株式会社 映画映像のバリアフリー字幕や音声ガイドの制作を専門としながら、近年は演劇などの文化芸術分野やイベントなどのバリアフリー対応、配給事業などにも取り組んでいる。

■活動内容

- ・映画のバリアフリーが本当の意味でスタンダードな社会にするためには、プロの制作者の育成とビジネスとして成り立たせる必要があると強く感じ、先駆的に取り組んだ。
- ・バリアフリー字幕や音声ガイドの制作には「当事者性」と「作品性」が大事であり、映画製作者、視聴覚障害当事者、字幕音声ガイド制作スタッフの3者で意見交換する場を設け、当事者に伝わり、かつ、作品の世界を壊さないよう配慮されている。また、字幕や音声ガイドを提供するアプリの開発運営、上映イベントや映画祭などの総合的なバリアフリーサポートに取り組んでいる。
- ・2019年からバリアフリー演劇にも取り組み、全ての観客が同じ舞台を鑑賞し、視聴覚障害者に限らず、精神障害者、知的障害者、車いすユーザーなど多くの方が楽しむ演劇公演が実現した。
- ・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルでの合理的配慮の提供に向け、障害当事者がイベント参加される際の困りごとについてヒアリングを行い、ガイドラインを作成した。
- ・2021年から映画の配給事業が始動し、配給におけるバリアフリーにも取り組む。

映画や演劇などの文化芸術を観たいという障害者の希望を実現する取り組み、聴覚障害だけでなく視覚障害にも対応した取り組みの先駆性をはじめ、活動がビジネスベースで成り立たせるように取り組んでいることが高く評価され、今後の活動に大きな期待が寄せられるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。